

国立大学法人愛媛大学及び国立大学法人高知大学
共同入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和3年10月1日（金）14:00～15:40 WEB会議	
委員	委員長 松島 学（大学教授） 委員 安藤 潔（弁護士） 委員 木本 敦（公認会計士）	
審議対象期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
抽出案件（合計）	6件	（備考） 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。 各大学の審議対象案件についての概要を説明したのちに、抽出案件の個別審議について各発注機関の担当者から説明を行い、質問に対して回答した。
工 事（小計）	6件	
一般競争入札 （政府調達に対する指定工事）	0件	
一般競争入札 （上記工事を除く）	5件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随 意 契 約	1件	
設計・コンサルティング業務（合計）	0件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	0件	
委員からの意見・質問， それに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	無し	

質 問	回 答
<p>1. 愛媛大学</p> <p>(1) 一般競争入札方式</p> <p>【愛媛大学（医病）2号館血管撮影室改修機械設備工事】</p> <p>・1者応札ではあるが、問題ないレベルではあるのか。</p> <p>・評価点について、22点満点中11点とあるが、平均的な値なのか。</p> <p>・落札率が高くなった原因は何が考えられるか。</p> <p>(2) 一般競争入札方式</p> <p>【愛媛大学（城北）理学部本館2階多目的スペース改修電気設備その他工事】</p> <p>・最低基準価格を下回っている業者が2社いるが、基準価格の設定額が高いように思われる。</p> <p>・落札率が低かった場合、失格となる規定はあるのか。</p>	<p>・問題ないと判断しました。</p> <p>・平均的には10点前後です。</p> <p>・一般的な空気調和設備の改修工事であるため、参加者としても積算を行いやすかったことが想定されます。</p> <p>・照明器具等について、大量購入を行うことでコストを抑えることができたためだと思われる。</p> <p>・パーセンテージで規定はしていないが、低入札価格調査にて各項目の金額確認等を行い、疑義が解消されない又は積算誤り等が発覚した場合等については、契約を締結しないことがある。</p>

<p>(3) 随意契約方式 【愛媛大学学内 LAN 光ケーブル等設備工事】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 随意契約方式を採用した理由は何か。・ 随意契約を行った際の予定価格は、当初に比べてどれくらい変動したか。	<ul style="list-style-type: none">・ 本案件については、既に 2 回の一般競争入札手続を執行しており、1 回目は不調、2 回目は不落の結果となったため、本学の規定にのっとり、随意契約方式で契約を締結した。・ 一部別工事としたが、総額は大きく変わっていない。
---	--

質 問	回 答
<p>2. 高知大学</p> <p>(1) 一般競争入札方式 【高知大学(岡豊)看護学科棟外壁改修Ⅰ期工事】</p> <p>・1位の業者と、2位以下の業者の入札金額に差があるのはなぜか。</p> <p>(2) 一般競争入札方式 【高知大学(朝倉)理工学部情報科学棟2・3階空調設備更新工事】</p> <p>・1者だけが突出して低廉であるようには見受けられないが、その理由は。</p> <p>(3) 一般競争入札方式 【高知大学(医病)病棟等改修電気設備工事】</p> <p>・高落札となった理由はヒアリングしたか。</p>	<p>・1位の業者については、同キャンパス内で別の工事を請負っており、現場事務所や機材を流用できるため、コストの削減ができています。</p> <p>また、本工事で大きなウエイトを占める足場についても、別工事に入っている足場業者に発注を行うことで特段の協力を得ることができ、コストの削減が可能となっている。この積み重ねが、入札金額の差に表れていると思われる。</p> <p>・本工事は空調設備の改修工事で技術的難易度も低いため、多くの参加業者が見込まれる案件です。</p> <p>そのような中で、1位を取るために、各参加者が企業努力を行い、一定の競争性が働いたものと考えます。</p> <p>・高落札となった業者にヒアリングを行った結果、本学が公開している数量表を用いることで、精度の高い積算が可能となったとのこと。</p>

<p>・前年度の委員会では不落・不調の報告が多かったが、今年度分については、低入札の報告案件が多くなっている。</p> <p>このことについて、工種等が関係しているのか、又は傾向等の要因があるのか。</p>	<p>また、積算担当者を増員したことも、精度の高い積算が可能となった理由の一つであろうとの回答であった。</p> <p>・昨年度報告分については、入札参加者が僅少となる案件が多く、その結果不落・不調が多く発生している。</p> <p>今年度報告分については、工種に関わらず、従来から応札を行っている業者に加えて本学の入札に初めて参加する業者が増えたため、一定の競争性が働き、その結果低入札となる案件が発生する傾向となっているものとする。</p>
---	--